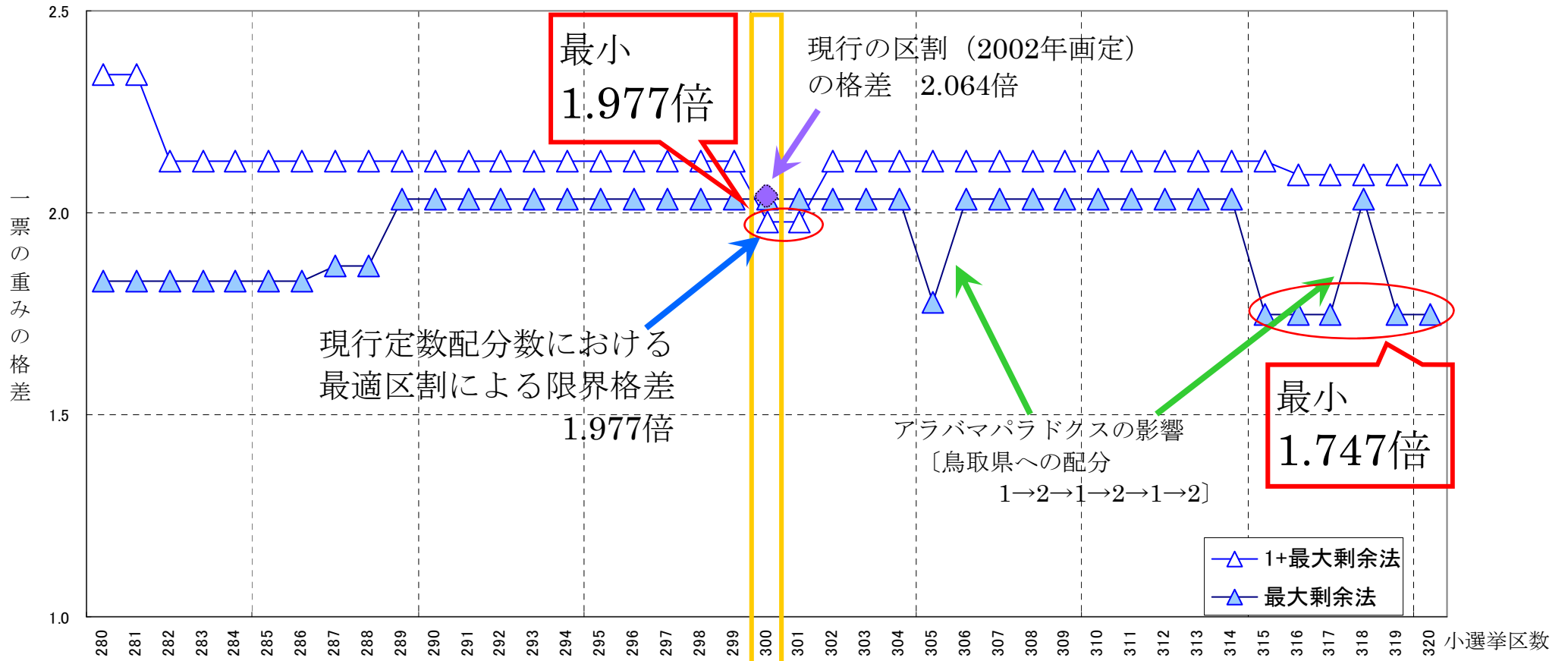


# 一票の重みの格差から見た最適小選挙区数

## 現行の定数配分法と1議席事前配分を廃した場合の格差縮小の限界



## 格差縮小のためには制度変更が必須！

定数配分方法以外で、現行の小選挙区区割画定の骨格を作っている主要要素

- ①市区郡行政界を区割線とする原則
  - ②飛び地の禁止
  - ③小選挙区を都道府県内で作る原則
  - ④衆議院小選挙区数は300
- ①② → 今後も尊重すべき  
 ③ → 合県・ブロック制の議論など課題山積  
 ④ → 技術的・政治的に困難が少ない

### 平成の大合併の影響大

### 公平な市区郡分割ルールが急務

「区割り案の作成方針」による分割が許される基準  
 分割(A) 過大人口市区が存在する場合  
 分割(B) 過少人口選挙区の設置を避ける場合

この基準だけでは対応できない。



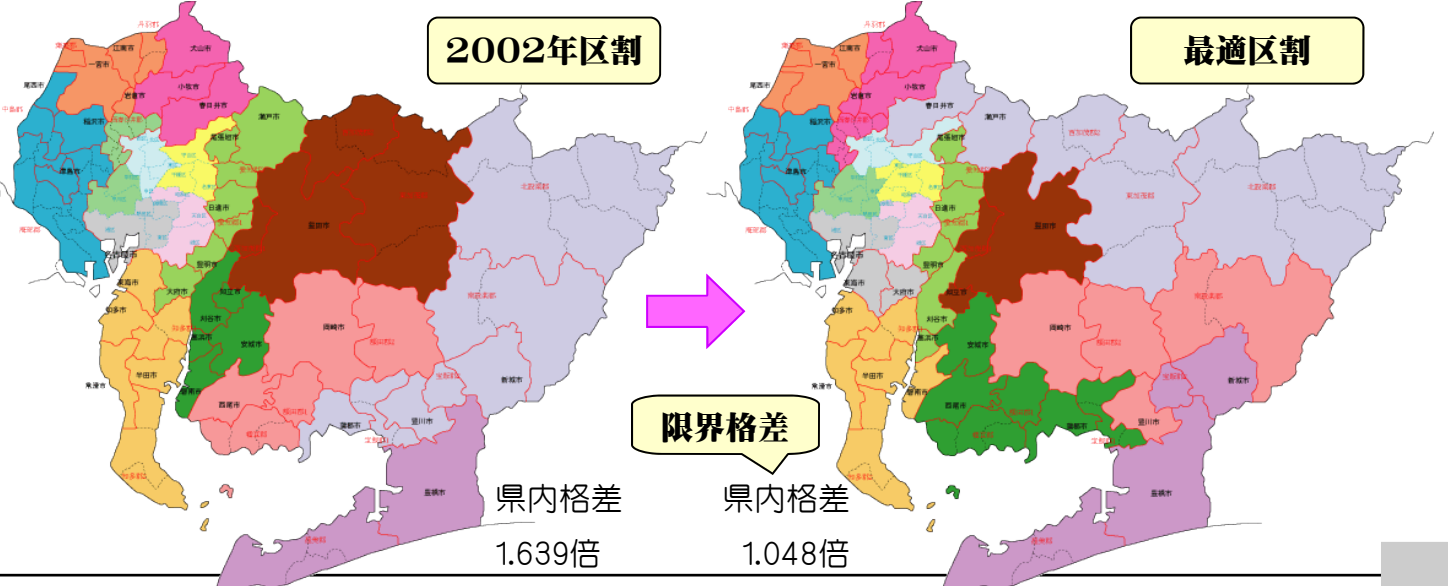
## 本研究の主な結果

- 小選挙区数を 280 ~ 320 に変えたとしても、一票の重みの格差を大幅に縮小させることはできず、1.747倍が限界。
- 現状の分割基準では格差縮小に対応できない。

## 限界格差とは？

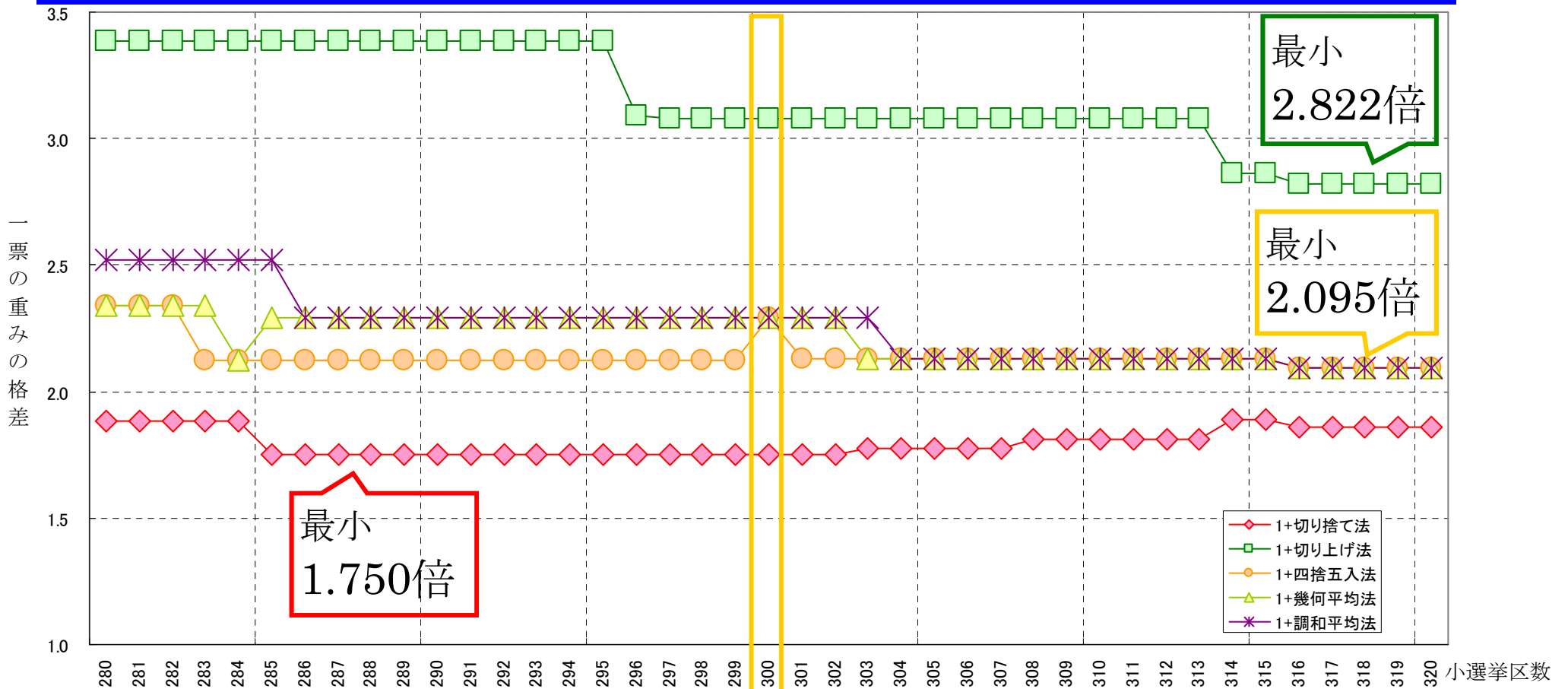
与えられた定数で一票の重みの格差を最小にする区割を**最適区割**とよぶ。最適区割の導出は困難だったが、根本・堀田(2003)により初めて全都道府県での導出に成功した。この最適区割の情報から得られる、一票の重みの格差がそれ以上は縮小できないとの限界値を**限界格差**とよぶ。

(例) 愛知県15選挙区

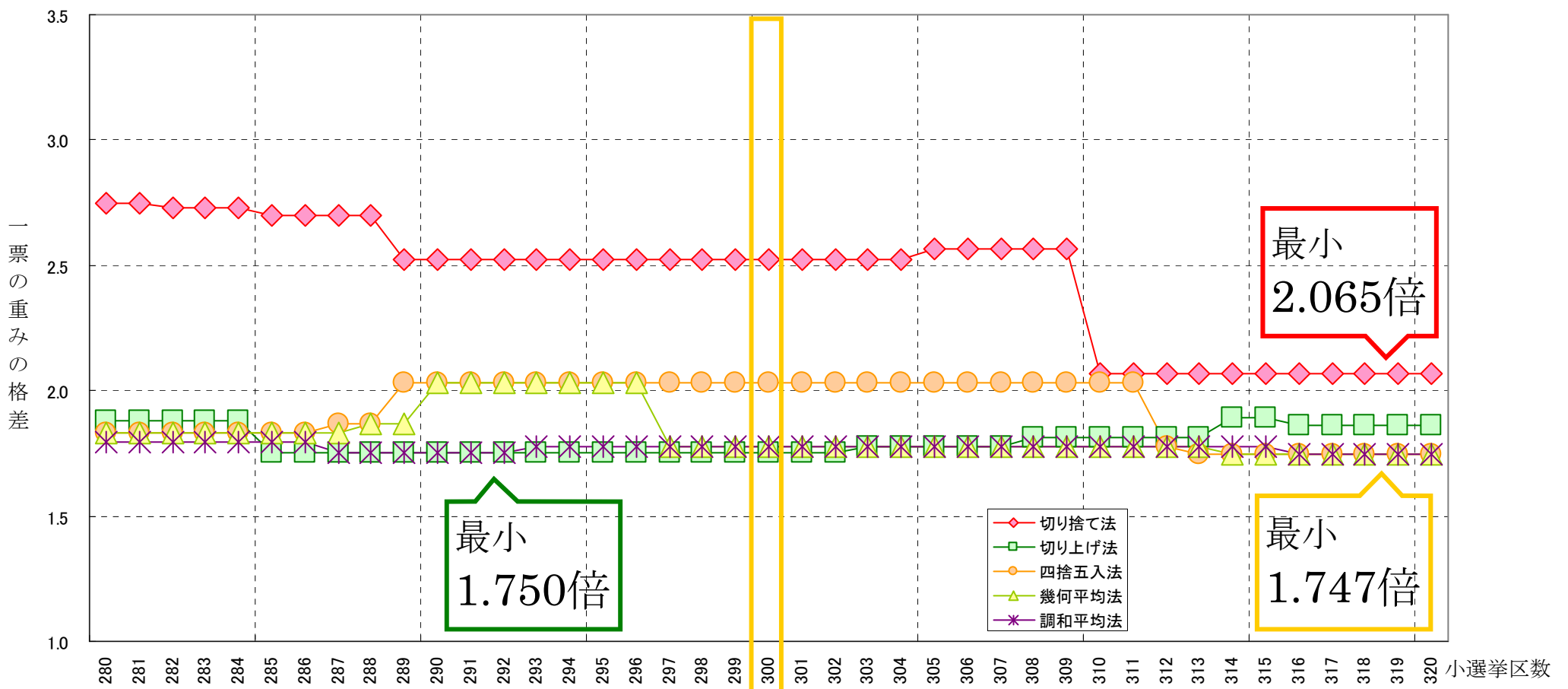


# 小選挙区数の変更では格差は縮小しない

## 1 議席事前配分は残し，定数配分法を見直した場合の限界格差



## 定数配分方法を抜本的に見直した場合の限界格差



### 本研究の内容を考察した論文

「一票の重みの格差から見た小選挙区数」

### 定数配分法の数理的な考察を行った論文

「衆議院小選挙区における一票の重みの格差の限界とその考察」選挙研究 第20号 (2005) pp.136-147

### ご意見・ご感想をお寄せください



■ 根本俊男:nemoto@shonan.bunkyo.ac.jp  
堀田敬介:khotta@shonan.bunkyo.ac.jp

■ 〒253-8550  
神奈川県茅ヶ崎市行谷1100  
文教大学 情報学部